

命粗末に扱う法案許すな

戦争法案

今言わなければ

私たち日本社会医学会は7月25、26日に福岡県久留米市で開かれた総会で、「戦争は最大で最悪の社会的健康阻害要因だ」と明確に指摘し、戦争法案に反対する特別決議をあげました。

法案は明らかに、自衛隊を海外の戦争に派兵するため、憲法違反の戦争法案というべきものです。

一般に学会等では、政治的争点になっているこ

日本社会医学会理事長 **山田 裕一** さん



やまだ・ゆういち
1975年金沢大学医学部卒。82年同大学大学院修了。同年、金沢医科大学衛生学教室に入り、90年から教授を務め2015年3月退職。10年から日本社会医学会理事長。

か、という問題だと考えています。

戦争責任を追及

戦争は人命を傷つけ奪うこと自体を目標として「政治的中立」の風潮が根強くあります。しかし私は、今回は人の命を粗末に扱う法案を医学者、医師として許していいの

私たちの学会は199

9年に前身の社会医学研究会(60年創設)を改称、合わせて55年の歴史を刻んできました。国民の健康や生活に生じる問題と

社会とのかかわりを解明し、社会的な予防対策を自由闊達に議論する場と

が参加しています。戦争とのかかわりでは、滋賀医科大学の西山勝夫名誉教授や、全日本民医連会長を務めた助昭三医師ら先輩諸氏が、中国で残虐な人体実験などを行った旧日本軍731部隊に象徴される、医学医療の戦争責任を、長年厳しく追及してきました。

「思った」との感想も語られました。実態伝える努力
いま、政府は仮想敵が中国であるかのように宣伝、多くのメディアが無批判に情報を流しています。中国への嫌悪感があります。中国への嫌悪感があるおられ、アメリカと協力して中国の進出を防ぐかのような雰囲気や国民のなかにつくり、法案を通そうとしている。非常に危険だと思えます。実際のリスクは、テロや地域的な小競り合いなどが火種になり、そこへ自衛隊を出す可能性が高い。アメリカのためにやる戦争です。実態を伝える努力をさらに強め、必ず廃案にしましょう。

社、医療、教育関係者など幅広い分野の450人
毎年、学会で必ず医学医療、医師の戦争犯罪についての研究発表が行われ、議論を積み重ねてきた数少ない医学会の一つです。

そうした会だけに、決議の提案に、ほぼ全員が賛成し、満場の拍手で採択されました。会場から「会員からの提案があり、総会で決議をあげることができいい学会だ

聞き手・写真
西口友紀恵